

平成28年度 佐賀学園高等学校 学校評価

1 学校教育目標

校训である「創造」「運動」「貢献」を具現化するために、生徒一人ひとりが相互並びに教職員との信頼を基にした人間関係を構築し、知性を磨き、個性豊かで、志高く、建学の精神「産業界の第一線に貢献する人材の育成」を目指す。

2 学校経営ビジョン

- ① 県民・地域社会の信頼を得る学校づくりを目指す。
- ② 基本的な生活習慣の定着及び周りの人への思いやりをもった心豊かな生徒の育成を目指す。
- ③ 生徒一人ひとりの学力・人間力を伸ばし、すべての生徒の進路保障を目指す。
- ④ 部活動の奨励と充実を図り、全国で活躍できる生徒の育成を目指す。

3 本年度の重点目標

- ① 2万人を超える卒業生によって築かれた伝統を継承し、更なる学校の活性化に向けて全職員が一丸となり、「誠心誠意 ～当たり前のことを当たり前に～」のスローガンのもと、次の8点を重点目標に掲げ、生徒の「人づくり」のために邁進する。
- ② 基本的な生活習慣を定着させ、授業・部活動・学校行事および生徒との面談等を通して生徒の内面への指導を充実させ、遅刻・欠席・問題行動・転退学者の減少を図る。
- ③ 基礎学力の定着と授業の充実および基本的な学習習慣の定着により学校生活の充実を図らせる。また、学力向上により進路実現100%を目指す。
- ④ 入学させた生徒全員を卒業させることを目標にきめ細かな指導を行う。
- ⑤ クラス目標を掲げ、目標達成に向けて教職員の協力体制を構築する。
- ⑥ 服装容姿、挨拶のマナーアップを図り、地域に信頼される学校づくりを目指す。
- ⑦ 更なる職業系資格取得の向上、および英語力の向上を目指す。
- ⑧ 新校舎をいつまでもきれいな状態で保つなど教育環境の整備に努める。
- ⑨ 部活動の加入率を向上させ、各種大会で上位を目指す。

4 前年度の成果と課題

「生徒一人ひとりを大切に育てる」ための具体的方策として、基本的な生活習慣の更なる定着、授業の充実、家庭学習の習慣化、部活動加入率の更なる向上、マナーアップ等々、取り組むべきことは山積しているが、教職員が一丸となって重点目標達成に向けて新校舎とともにイメージアップを図りたい。

5 総括表

領域	評価項目	評価の観点 (具体的な評価項目)	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
学校経営方針	学校経営方針	・本年度の重点目標を生徒・保護者に周知できたか。 ・重点目標に積極的に取り組めたか。 ・各分掌部長・学年主任がそれぞれの役割を果たせたか。 ・職員の見聞向上ができたか。	・重点目標を知っている生徒・保護者の割合を80%以上にすること。 ・重点目標の取り組みについて、生徒・保護者が「非常に良い」「良い」の評価を80%以上にすること。 ・分掌・学年が決めた目標達成をすること。 ・職員研修の機会を増やす。	・全校集会、振興会、学校通信で重点目標を生徒・保護者に知らせる。 ・各分掌部長と学年主任に対して毎月面談し進捗状況を踏まえ目標達成に向けた取り組みを促す。 ・本校経験年数4年未満の職員に対する初任者研修等を20回行う。	B	・重点目標をある程度知っているまで含めても3分の2弱でまだまだ浸透していない。 ・各部長等の面談は必要に応じてはできたが定期的には不十分である。 ・初任研修(2学期)までは順調にできたが3学期はできなかった。
	生徒募集 (広報活動)	・本校のセールスポイントを中学生とその保護者に正しく伝えられたか。 ・受験者数の増加につながる募集活動が行えたか。	・パンフ、チラシ、パワーポイント、DVDで他校との差を理解させる。 ・受験者数の前年度比120%、専願入学者120名を目標とする。	・種々の募集関連事業の実行委員会を設け、共有と協働を基本に戦略を練る。 ・新校舎、部活動、資格取得、進路保障を全面的にアピールする。	A	・受験者数の前年度比120%は達成できなかったものの、専願入学者は180名近くになり、募集活動の成果は十分であったと考える。 ・活動の中身を充実させ定員確保を目指す。
学校運営	学校事務	・生徒・職員の安心安全のため、体育館立替及び外構工事に着手できたか。	・安全かつスムーズな工事進行を行う。	・工事の進捗状況に合わせ、生徒・職員の安全な導線の確保を図る。	B	・事故等なく当初スケジュール通りに体育館立替及び外構工事が完了した。 ・今後も、安全安心な施設利用へ向け教育環境の整備を継続する。
	職員の指導力向上	・社会の変化に対応した教育の実践ができたか。 ・内容が濃く、わかりやすい授業ができたか。	・佐賀県教育センターの教育相談、生徒指導に関する講座、特別支援に関する講座等専門講座や公開講座の中から3年間で1回以上を受講する。 ・生徒が充実感を味わえるような授業を展開し、授業改善アンケートの評価を参考に研鑽に努める。	・職員研修会を各校務分掌で企画する。教育センターの研修講座に15名以上参加する。 ・各教科での授業研究会を開催する。 ・職員相互の授業参観を活性化し、授業の質を向上させる。	B	・教育センターの専門講座への参加については9講座17名が研修を行った。 ・各教科の研究授業は計画通り実施できた。 ・公開授業週間を設定し職員相互の授業参観ができた。 ・職員研修についてはもう少し充実させる必要がある。 ・授業改善アンケートの結果を参考に授業の質の向上に努める。
学力向上	学力向上	・基礎的知識と技能の修得が図られたか。 ・進路を見据えた学力が定着したか。	・「分かる授業」の実践と「家庭学習」の習慣化に努める。 ・進学、就職に対応できる学力の定着を目指す。	・学習規律の形成と環境の整備に努める。 ・各教科「分り易い授業」のための手立てを研究する。 ・平時より宿題を課し、チェックし評価する。	B	・進学、就職に対応できる学力の定着には、個々の実態に即したきめ細かな個別指導や個別指導、指導体制(教科担当、担任、部顧問、家庭等)の連携を築くことが必要と思われる。
	進路指導	・進路実現のための基礎学力が定着したか。 ・進路意識の向上を図るか。 ・進路ガイダンス等がキャリア教育に生かされたか。 ・希望進路が具体的な進路保障につながったか。	・進路指導講座や外部教育力を生かした進路意識の向上を図る。 ・受験に対応した学力と学習力(GTZ)の向上を図る。 ・成績高部等を牽引力とした国立大学合格者数10名を目指す。 ・就職内定率100%を達成する。	・進路調査、適性検査、進路ガイダンスなどで個々の客観的データを分析する。 ・基礎学力診断テストなどの分析によりミスマッチのない進路指導を行う。 ・学力向上のためのセミナーを実施する。 ・担任によるFINE SYSTEMの利用により具体的な指導を活性化させる。 ・新規企業開拓、企業訪問を例年通り実施する。	B	・進路希望調査、進路ガイダンスにより具体的な進路指導が実施できた。 ・私立大学に関しては、指定校推薦やAO入試の利用により、ある程度の合格者を出したが、国立大学については成績高部等の参入が必要であり、受験の課題である。 ・就職内定率は100%を達成できたが、好景の影響で、学力向上に伴った結果ではない。 ・FINE SYSTEMの利用に課題が残る。
教育活動	生徒指導	・交通安全の意識向上があったか。 ・校内でのマナー良化ができてきたか。 ・制服が正しく着こなされたか。	・交通事故0を目指す。 ・マナー向上を図る。 ・制服を正しく着用する。	・全校生徒で交通安全についての意思統一を図る。 ・生徒会と共同して啓発活動を行う。	B	・例年行っていた交通安全教室を、今年はマナーアップモデル校に合わせたため、進路指導で実施の事故に近いものを実演してもらい、生徒の意識がより高まった。 ・校内でのマナーにおいて一部の生徒が繰り返し注意指導を受けた。生徒会が行っているマナーアップ運動の効果もあり、大きな問題はなかった。 ・制服の着こなしは以前より良くなったが、女子スカートに関しては短くするものも多く、特に校外では目立っている。制服の検討時期と思われる。
	環境美化	・新校舎の最初の状態が維持されるか。 ・ゴミの分別収集ができたか。 ・校内美化の意識が向上したか。	・新校舎の最初の状態を維持する。 ・各クラスでのゴミの分別を強化する。	・清掃用具を充実する。 ・美化コンクールなどにより校舎使用のマナーやモラルの向上を図る。 ・ゴミ袋の記名を徹底する。	B	・新校舎になり清掃活動の意識が高まったが、教室の床のホコリが目立ち、最初の状態を維持することが困難である。 ・ゴミの分別はできてはいるが、記名までは徹底されていない。
課外活動	課外活動	・仲間と切磋琢磨し社会性や強い精神力を磨き、人間性を高めることができたか。	・加入率70%を目指して、担任・顧問との連携を密にし、各クラブの部員数を増やす。 ・各種大会で優勝を目指し、上位進出を果たす。	・クラブ紹介を工夫する。 ・文武両道が実践できるように部活動の質を高める。	B	・部活動の今年度の加入率は60.9%であった。よいうつろの工夫をし加入率の増加を目指す。 ・各種大会で上位進出を果たした。
	長期欠席・不登校傾向の生徒に対する対応	・チーム(担任、学年主任、管理職、教育相談担当者、スクールカウンセラー)の連携を図り、生徒への対応が充分に行えたか。	・教育相談室全体が、学習に取り組める雰囲気作りを行い、学力の向上を図り、生徒に自信をつけさせ、達成感を味わわせる。 ・精神的安定が保たれ、生徒自身が学校への関心を持ち、所属学級へ戻るよう努力する。	・日々の生徒との関わりを通して、生徒が安心して相談できる環境を整える。 ・生徒一人ひとりに合わせた学習指導を行う。 ・チームの連携を図り、生徒に関わりをもつ時間が増えるようにする。	B	・担任との情報交換は昨年よりスムーズに出来た。 ・管理職、スクールカウンセラーの先生方の助言等も多く頂き大変良かった。 ・教科担当者、教育相談担当者との連携も昨年度よりスムーズに出来た。 ・今後の課題は、一人ひとりの能力に合わせた学習指導を充実したい。また、所属クラスに属することができるように、カウンセリング等を更に深めたい。
特定課題	礼法教育	・コミュニケーションの基本である挨拶、言葉づかい、面接マナー等が充分であるかどうか。	・学年進行で積み重ねていき、3年次の進路面接に活かすと共に、社会人になってもすぐに行えるようになる。	・礼法学習で学び、礼法室での実践を通して身得させる。	B	・礼法室改修のため使用しにくい状態が続き、実技は教室で行うことが多かった。礼法検定では予想を上回る出来で、着実に力をつけることができた。
	生徒会活動	・校内の問題を自分たちで考え、主体的に行動できたか。	・学級活動や委員会活動を活発に行い、学園全体のマナーアップを図る。	・生徒の意見を耳を傾けポトムアップ機能を充実させ、関連分掌・学年・学級との連携を密にする。	B	・体育館がないのでの学際祭であったが、様々な工夫を凝らし、成功させることができた。 ・校内でのマナーについてまだまだ充分でないところがあるので、マナーアップ運動をより発展させたい。
キャリア教育・マナトレ	キャリア教育・マナトレ	・毎日のマナトレの内容を理解させて基礎学力を身につけさせることができたか。 ・インターンシップを将来への進路選択へ結びつけることができたか。	・マナトレを学習することでGTZのD2ゾーン以上の学力向上を目指す。 ・3年間を見通したキャリア教育を実践して進路実現に結びつける。	・まとのテストや認定テストを分析して、生徒の学習の強み・弱みを行い、レベルアップを図る。 ・キャリアノートやインターンシップを活用することで進路保障に結びつけることができるように指導の充実を図る。	B	・マナトレと基礎学力診断テストの事後活用ができていない。業者からのデータの活用を検討すべきである。 ・マナトレの方法についてマンネリ化している。 ・インターンシップの一連の準備を12月からの前倒し始めることができた。課題も残るが順調に実績を積み重ねている。

6 総合評価

生徒募集は対策室をはじめ教職員の努力で目標値をクリアすることができたが、佐賀市内中学校からの生徒の確保については厳しい状況が続いており、地域から信頼される学校として、更なる教育内容の充実、生徒の履修や立ち振る舞いの改善が急務である。マナトレをはじめ基礎学力の定着と成績高部等の学力向上は引き続き課題が残った。授業をはじめ生徒指導面で教師が生徒と真に向き合う姿勢の構築が必要である。

7 次年度への課題・改善策

地域から信頼される学校を目指して、生徒の学力向上とマナーアップ(服装と立ち振る舞い)が最重点課題である。基礎学力の定着を含む学力向上のために教師及び生徒が真に共に授業に取り組むこと、マナーアップのために生徒の自覚喚起および全職員が徹底して生徒の指導に当たり本校のイメージアップを図ることが必要である。また、部活動の実績向上を目指す。